

バンコクと八千代をつなぐ

バンコク子ども親善大使の交流



5月7日から14日まで、バンコク子ども親善大使12人を含む訪問団一行が本市を訪れました。この国際交流事業は平成元年から始まり、今年も訪問団一行に日本文化を体験してもらえました。これまでバンコク都から326人、本市から342人の子ども親善大使がお互いの国を訪問しており、バンコクと八千代の絆は強固なものになっています。



▲5月11日、生涯学習プラザで開催されたダイラックアン主催のウェルカムパーティー

八千代台西小学校の学校交流会 縁日体験や民俗衣装で歌や踊りを披露

八千代台西小学校の訪問では、全校児童がタイの国旗を振って歓迎しました。今回は、日本の祭りをテーマに体育館には子どもみこしややぐらも準備。教室や体育館で縁日や昔遊び、書道体験を行い日本の文化を感じてもらいました。また、給食を通じて日本の食文化も感じてもらいました。

午後には、バンコク子ども親善大使が美しいタイの民族衣装で歌や踊りを披露。交流会の最後には日本の児童とバンコク都訪問団と一緒に八千代ふるさと音頭を踊りました。



▲ココナッツシェル（殻）を使うタイ北東部の踊りを披露

消防署・茶道体験

世界一渋滞する都市と言われるバンコクでは、小型の消防車が多く、大型の消防車を見る機会が少ないと言われていることから、中央消防署を訪問し、火事の際のけむり体験や大型消防車の見学、ハシゴ車の乗車体験などを行いました。普段近くで見ることがない消防車を間近で見学でき、子ども親善大使は目を輝かせ、体験を楽しんでいました。

また、茶道連盟の皆さんの協力で、文化伝承館で行った茶道体験では、茶道の作法を学び、茶菓子・抹茶がふるまわれました。子ども親善大使は、日本語で「いただきます」「ごちそうさまでした」「おいしいです」と笑顔

で話し、日本の伝統文化を楽しんでいる様子でした。

滞在中はこのほかにも、春バラが満開のやちよ京成バラ園を見学しました。



▲茶室で心落ち着く時間を過ごしました

子どもたちの想いが形になった ダイラックアンとテップウタイ

八千代子ども親善大使たちは事前研修で、自分たちの役割、両国の文化の違いやタイ語のあいさつなどを学んで準備します。慣れない海外での、表敬訪問や学校交流会などの公式行事は緊張の連続ですが多くの人々と出会い、ホストファミリーなどの優しさに触れることで、お互いを認め合うことの大切さに気づき大きく成長します。

帰国後もその気持ちが変わることはなく、平成16年4月に「いつまでも交流を続けたい」という想いを持った有志が、OGOB会「ダイラックアン」を立ち上げました。

「ダイラックアン」とは、タイで旅の安全や幸せを祈って、手首に巻いてくれる白い糸のことです。自分たちが訪問したときに、バンコクの人から心を込めて巻いてもらった感動が心に残っていることから、この名前が付けられました。バンコク子ども親善大使も、“東の国よ永遠に”という意味の「テップウタイ」を結成。今でも途絶えることなく交流が続いています。

今回の受け入れでは、ダイラックアン主催

のウェルカムパーティーが生涯学習プラザで行われました。このパーティーは、親善大使としての緊張が少しでも和らぐように、ホストファミリーと一緒に参加してもらい、ゲームなどをしながら過ごします。今回は鬼ごっこや玉入れ、ドッジボールなどの楽しいプログラムに大きな歓声が。笑顔いっぱいの交流になり、バンコクの子たちはリラックスしてすっかり普段の顔に戻っていました。

絆の継承とバンコク訪問

国際文化交流事業が始まってから今年で37年目を迎え、脈々とバンコクと八千代の絆は次の世代へと継承されてきました。また、八千代の歴代子ども親善大使の中には今でもこの国際文化交流事業に携わっている人もいます。これまで、築き上げてきた絆をこれからも絶やさず次の世代へと継承するとともに、今まで以上に絆を強くしていくため、国際文化交流にこれからも取り組んでいきます。

来年1月には、八千代子ども親善大使12人がバンコクを訪問します。今回も一生忘れられない、大切な人たちとの出会いが待っていることでしょう。異文化体験を通し、視野を広げ、国際社会での活躍を期待しています。



▲ウェルカムパーティーではゲームに勝ったチームにメダル授与

お問い合わせは
シティプロモーション課
☎421-6703へ

広告

広告